

## ・不誠実対応-36

児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は、「お母さんが心配している事は良く解っています。ちゃんと2名で(悠生君)の誘導をしているから安心してください」という内容の発言を何度もしていた。

しかしながら、今回の施設長(宇津慎史)の説明では、状況に応じ、この取り決めに何度も勝手に破っていたとのことであった。

これは悠生君が話せない事をいい事に、危険な誘導を秘密裏に行われていた事を意味する。非常に悪質な嘘を、死亡事故を起こすまでアルプスの森(施設長:宇津慎史)は、つき続けていた事を意味すると悠生君の両親は感じている。

また施設長(宇津慎史)のこの発言から、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側は、安全対策を履行する上での絶対的義務と努力義務を完全にはき違えていることが解る。

このように安全対策に関しての根本的な姿勢が完全に間違っており、その状況が非常に問題であると認識していない以上、今後、どのような安全対策をアルプスの森(施設長:宇津慎史)が提示して来ても、それは確実に履行される保証はないことを意味すると思われる。

(音声ファイル-36)

## &lt; 施設長(宇津慎二)の説明内容 &gt;

\*宇津慎史のこの時の声は非常に小さく保護者側には聴こえ難い状態であったため(ボイスレコーダーは施設長の近傍にあったため、声は十分に拾えている)、遺族側はボイスレコーダーを聴くまで発言内容を充分には確認できなかった。その為、遺族側はこのボイスレコーダーを聴いて説明内容に驚愕した。

[0:00:41]

このような事故を防ぐことができなかった。

[0:01:33]

(送迎車施設間の誘導は) **なるべく二人で、**

[0:01:53]

(送迎車施設間の誘導は) **極力二名体制**

[0:03:04]

(送迎車施設間の誘導は) 通常ですと単独であのう、一人で送迎車から降ろすと言う事は**極力していない状態なのですが…**

その色々、その時の児童さんの様子にもありますし、実際、利用されている方の児童さんの特性にもよりますので、**一人であのう・・・の中に入れるという事も時々はしていました。**

### < 上記説明内容における問題点 >

送迎車施設間の誘導において 2 名体制で行うことは、安全対策の為には絶対必要条件であり、悠生君の母親(清水亜佳里)は何度も児童発達支援管理責任者(宇津雅美)に確認していた。

また、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)も何度も二名体制で対応しているから安心して下さいと発言していた。

さらには、事故報告書(令和 5 年 1 月 16 日付)に以下内容の記載がある。

**当社では、児童が乗った送迎用の自動車が事業所に到着した後、各児童を事業所内へ誘導する際は、2名の職員で対応することになっておりました。**  
(事故報告書(令和 5 年 1 月 16 日付)より一部抜粋)

従って、悠生君の誘導は 2 名体制を行う事になっており、2 名体制での誘導は努力義務でなく絶対的な義務であったことは、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側も認識していたはずである。少なくとも、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は認識していた。

しかしながら施設長(宇津慎史)のこの保護者会での説明では、「なるべく二人で…」や、「極力二名体制で…」となっている。さらには、児童の様子や、(他の児童の)特性に応じて単独での誘導を時々行っていたとのこととなっている。

すなわち、安全対策上、絶対必要とされ、かつ、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側も悠生君の母親(清水亜佳里)に何度も、二名で対応しているから安心して下さいと言っていたにも関わらず、施設長(宇津慎史)は二名での誘導は安全対策の為に絶対必要条件であったとの認識がなかったことが上記の施設長(宇津慎史)の発言から判明した。

アルプスの森(施設長:宇津慎史)は、自己都合でアルプスの森(施設長:宇津慎史)を含め、悠生君の保護者や支援学校、アルプスの他のデイサービス、福祉相談員の方々と共有していた安全対策に関する取り決めを反故にし、保護者に嘘の説明をしても問題ないと考えていたのではないかと悠生君の両親は考えている。

これはアルプスの森(施設長:宇津慎史)は、取り決められた安全対策を履行する能力が根本的に欠如していることを意味する。従って、今後、どのような安全対策をアルプスの森(施設長:宇津慎史)が提示しても、その安全対策は十分に履行される保証はない事を意味すると悠生君の両親は考えている。

さらには施設長(宇津慎史)に発言に[0:00:41]、「このような事故を防ぐことが出来なくっ

て、大切な清水悠生君の命が失われたことについて、大変申し訳なく思っています」という  
のがある。この発言も遺族は納得していない。この悠生君の命を奪った事故は施設側が安全  
対策の約束を守らなかったためである。即ち、事故を誘発した張本人がアルプスの森(施設  
長：宇津慎史)である。従って、上記の施設長(宇津慎史)の発言は、事故を誘発した張本人  
が、自らが起こした事故であると言う認識が全く無く、災害の様に災いがふって来て、その  
災いに十分な対応が出来ていなかったとしているに過ぎない。非常に無責任な態度である  
と遺族は感じている。